

学校関係者評価書

1. 本園の「建学の精神」

太陽のあまねくそのひかりでつつむ

太陽（自然）は万物を平等に照らし、慈しみ、はぐくみ育ててくれます。園章にもありますように園のシンボルである「太陽」のあまねく光のように、私たちは子どもたち一人一人と向き合い、大切に育てます。

2. 本園の教育理念・方針

グローバル化やICT・人工知能などの急速な技術革新により、社会は大きく変化していきます。本園では、子どもたちが5年後、10年後も、キラキラと輝く目でたくましく生きていける3つの力を育みます。

教育の2本柱：「身体づくり」と「知能を育てる」！！

1. 子どもの持つ素晴らしい力をぐんぐん伸ばす “土壌づくり”

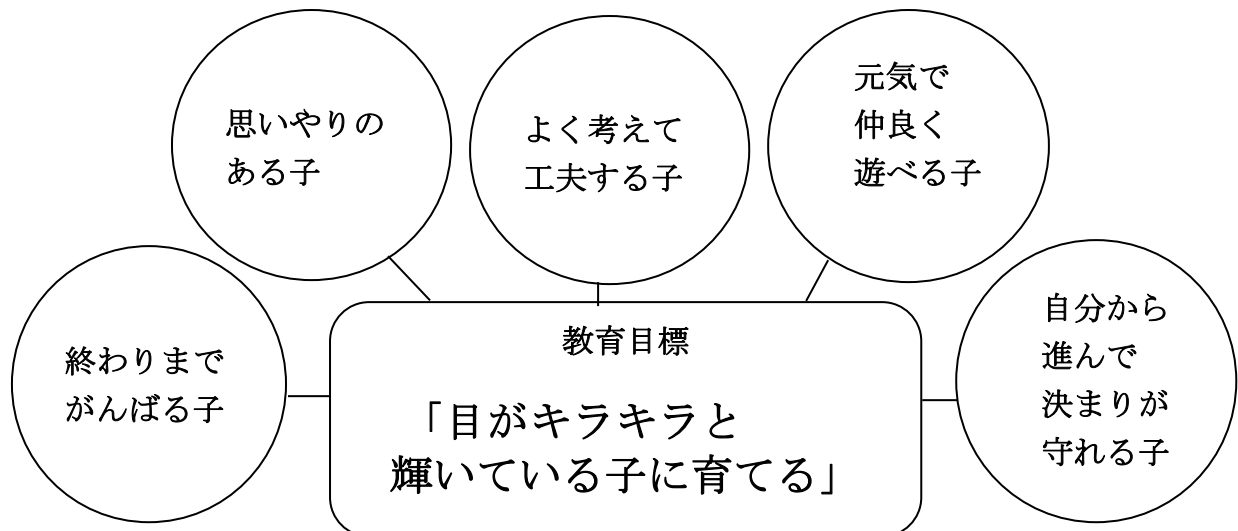
子どもの「やりたい」と思う主体的意欲は、遊びを通して得られる経験と知識の中から芽生えます。本園はその芽を大切に、自然に触れながら「健康な心」を育み、広い園庭と体育館で「身体づくり」に励みます。

2. 人間として、たくましく“生きる力”を育む

本園の教育の2本柱となる「身体づくり」と「知能を育てる」を通して自らやる気をもって、焦らずゆっくりと学ばう楽しさを培い、自ら夢中になって取り組む姿勢や思考力・創造力・最後までやり遂げる力を身に付けていきます。本園は子どもの未来を見据え、小学校に行ってから困らない教育を目指します。

3. 他人を思いやる心を持った子に育てる

本園では近隣の高齢者等「施設訪問」の実施や、園周辺道路を「あいさつ通り」と呼び、あいさつ運動に取り組むなど、地域の方との交流を図っています。またたてわり活動や併設保育園「キッズハウスよいち」のお友達とかかわる機会を大切に、お年寄りや幼い子を「思いやる」優しい心を育てています。



3. 教育課程（各学年の教育目標）

(満3歳児目標)	(年少組目標)	(年中組目標)	(年長組目標)
①園に慣れる ②基本的な生活の仕方を知り園生活を楽しむ	①基本的生活習慣を身に付ける ②集団生活に慣れる（毎日喜んで登園する）	①活動に進んで取り組み、最後まで頑張る ②友達と遊ぶ楽しさを味わう ③我慢する心を養う ④人の話を聴く態度を養う	①人の話をよく聴く ②意欲を持って最後まで頑張る ③自分の事は自分で責任を持ってやる ④誰にでも優しく思いやりを持つ ⑤我慢する心を持つ

4. 学校関係者評価委員会の評価結果

※評価の方法

A:充分達成されている B:達成されている

C:取り組んでいるが成果が充分でない D:取り組みが不十分

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
I. 保育の 計画性	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を心掛け、コロナ禍でも子どもたちが充実した園生活を送れるよう、活動をしていると思う。行事の時期や内容等、その都度柔軟に対応した活動報告を確認できた。 ・メリハリのある園生活、教育をしているので、小学校に行っても助かっている。 ・家庭ではあまり話をしない四季折々の行事や祭日について、子どもたちに分かり易く伝えてもらったことで、家庭に戻ってから、「これ知っている？」と得意気に話す姿が見られ、このような経験が自信に繋がると感じた。 ・マスク着用が必須となり、喜怒哀楽の表情を直に見ることが少ない。今後は、教師や友達表情に触れてほしい。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「やりたい」活動(遊び)が、身近な環境で行えるよう環境を整えたことで、意欲や夢中になる時間(集中力)が持続し、表現力も言葉だけでなく、絵画や工作、劇遊び等、子どもたちが得意とする分野で伸び伸びと表現するようになったため、今後も継続していく。 ・子どもたちの「安心・安全」を第一に考え、活動制限がやむを得ない状況が続いた。今後も「保育や行事の振り返り」を大切にし園運営を行っていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
II. 保育の在り方 園児への対応	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常をよく観察することで、非日常との違いを察知することができる。あいさつを通じての表情、声の調子などで、保育の対応を変えることが可能となりその準備ができています。 ・担任と補助教諭がチームとなり、子どもたちを見ることが非常に重要であり、いろいろなリスクを軽減することだと思う。 ・子どもたちが理解できるよう言葉を選び、分かり易く伝える工夫がされている。 ・子どもたちの活動制限やその時々地域の感染状況を考え、コロナ感染症への対応をもう少し柔軟にしても良かったのではないかと思います。今後コロナ感染症が5類へと引き下げられるため、子どもたちの活動の幅が広がることを期待する。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの体調や表情、様子をよく観察し、園全体で子どもを見ることは、病気や事故の危機管理徹底にも繋がり、安心・安全な園生活を送ることができるため、今後も継続していく。 ・「身だしなみ」についてのご意見をしっかりと受け止め、保育や園児への対応に活かしてきたことで、子どもたちが自ら整える等、自主性が伴ってきたため、今後も継続していく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅲ. 教師としての 資質や能力 良識・適正	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・言語化の難しさが考えられる幼児に対して、表情、しぐさから読み取る姿勢は立派であるが、客観的根拠、保護者との共有については、未知の部分がある。 ・教師としての時間とプライベートの時間との切り替えを心掛け、翌日を迎えることで、子どもたちのメンタル面にも良い影響を与えている。 ・教師が全力で子どもと追いかけてくれることで、子ども自身も一生懸命になり、「次は先生を捕まえる!」と目標を立てる等、教師と一緒に遊ぶことを楽しみにしながら登園している。 ・子どもの意見をよく聞き、押し付けではなく、話し合いがされていることが良い。等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・教師が日々笑顔で仕事ができるよう、心身の健康を整えると共に、今後も教師間のコミュニケーションの充実や助け合いを心掛けた教師間の体制を整え、園内外の事故回避に努めていく。 ・教師の得意分野を活かした保育を取り入れ、子どもたちが「幼稚園は楽しい」と感じられる環境を整える。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅳ. 保護者への 対応	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるため、今まで以上に丁寧な説明が求められたと推測する。それに対して、真摯に伝えようとする取り組みが、評価書から読み取れる。 ・保護者にも様々なタイプがいることで、園への希望や要望に温度差が出て、対応していくことが難しいことも多いため、教師の資質を平準化する努力と対応基準を統一することが重要だと考える。 ・面接が再開され、担任と直接話ができ、子どもの様子をじっくりと聞くことができたことや情報共有ができ良かったと共に、細部までよく見てもらっていることを感じた。 ・仕事をしているため、行事の早めの連絡や行事内容について、保護者に分かり易く伝えてもらえるとうり難い。等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・教師の資質や保護者への対応基準を統一できるよう心掛けていく。 ・保護者とのコミュニケーションの充実を図り、園運営への理解と協力を求めていく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
V. 地域の自然や 社会との かかわり	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、コロナウイルス感染防止対策について緩和の状況が予想されることから、体験的活動を増やしてもらいたい。 ・園内外の活動を含め、様々な場所に出掛けてものに触れることは子どもたちにとって貴重な体験・体感であり、幼児期に重要なことだと思う。 ・友達と一緒にバスに乗って園外に出掛けることは、家族間で出掛ける時よりも記憶に残り、子どもたちにとっても特別な思いがあると感じる。 ・地域交流として、賤機南小学校の2年生「学区探検」や6年生の「キャリア教育」で教師との交流があり、卒園児にとっても良い経験になったと思う。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の体験を大切にし、社会の動向や園内の状況をしっかりと見極めながら、園運営、保育展開をしていく。 ・園生活期だけでなく、卒園後も園が「安心できる場所」「思い出の場所」となれるよう、小学校との連絡・連携を大切にしていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
VI. 研修と研究	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら考えて創り出す力」「先を見通す力」は、小中一貫教育のテーマ、キャリア教育＝生き方指導に通じている。小1プログラムの問題にも視点があり、方向性については共感できる。 ・近年各地で起きている事故や問題行動を対岸の火事と思わず謙虚に捉え、客観的に検証し、園の教育、行動指針に加え、実行していくことが重要だと考える。 ・コロナ禍でも、工夫して研修をしていることが評価書から受け取れる。外部とかかわることが減少すると、閉鎖的になり偏りも生じるため、外部とかかわる機会が大切である。 ・事故なく今日に至るため、研修・研究の成果だと思う。今後も、子どもたちが安全で安心した環境で遊べることを願う。 等
課題に対する方策			<ul style="list-style-type: none"> ・本園が日々追及している「小学校へ行っても困らない教育」として、基本的な生活習慣の習得や「自ら考えて創り出す力」等がある。今後も「子どもの持つ力」を最大限に引き出していけるよう、努めていく。 ・園内研修だけでなく、外部にも目を向け、学びや社会の実態を教師間で把握・共有し、広い視野を持って子どもたちと接していけるよう努める。

令和4年度まとめ及び令和5年度への方針

1. 令和4年度のまとめ

日頃からご家庭にご協力いただき、園児及び同居家族の体調も確認させていただき、第一ひかり幼稚園とキッズハウスよいちが同様の基準にて、感染防止対策を徹底し園運営を行ってきた。その中で、行事や参観会は、「子どもたちの安心・安全」を第一に考え、お家の方の理解と協力のもと、1年間を通して学年別・クラス別に開催し、コロナ禍で中止を余儀なくされていたバザーは、形を変えて開催するなど行事・活動の見直しをしながら行ってきた。

また、面接を再開し保護者と直接会って話し合うことができたことで、園や家庭での子どもの様子を共有することができ、子どもたちの成長を促すための課題や手立てを見出すことができた。

また、社会で園児が巻き込まれる事件や事故が多く報じられた年でもあったことから、危機管理について園内で話し合うと共に、教職員一人一人が、気付きや悩み、相談がしやすい環境から教職員間のコミュニケーションを大切にし、心身のバランスを保ってきた。そして教師の不注意から子どもたちが危険にさらされないよう、マニュアルの見直しや自己の立場に置き換えて物事を考えることを通し、同様の事件・事故を起こさないよう安全対策の意識統一に努めた。

子どもたちが安心して伸び伸びと園生活が送れるよう「安全面」に配慮しつつ、子どもたちが「やりたい」と思うことを活動（遊び）に取り入れたことで、様々なアイデアが出るようになったと共に、言葉だけでなく、個々が得意とする分野（絵画・工作・劇遊び等）にて、思いを表現できるようになり、「自信」へと繋がっている。

今後は、5月連休明けから「新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類へと移行」することや3月13日から「マスクの着用が個々の判断に委ねられる等」、感染対策においても変化が伴うことを受け、体験活動の取り組みを見直し、「幼稚園は楽しい」と思える園運営に努め、園と家庭とが力を合わせて、子どもたちの成長を見守っていく。

2. 令和5年度取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
あいさつ運動の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と「元気で明るいあいさつ」を交わし、人と繋がる中で、牽いては自分の気持ちを他者へ伝える「コミュニケーション能力の向上」へと繋がるよう導き、また「幼稚園に行きたい」「幼稚園が好き」になってくれるよう、一人一人としっかり向き合っていく。 ・あいさつ時の表情や声の調子などを視診し、子どもたちの些細な変化を見逃さないよう、保護者とコミュニケーションを図り、保育中の手立てに活かしていく。 ・教師が手本となって丁寧なあいさつをし、意味を伝えながら、TPOに合わせたあいさつができるよう促していく。 ・昨今の社会状況を踏まえ、安易に知らない人に声を掛けることに怖さを感じるため、地域の人とそうでない人(警戒をしないといけない人)に気付けるよう、「あいさつ運動」を通して地域の人と繋がっていく。
子どもたちが健康でのびのびと園生活を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の気持ちを押し付けず、子どもたちが「やりたい」と思う気持ちや気付きを大切に、「考える力」や「夢中になって遊ぶ力」が育めるよう、材料や環境を整え活動(遊び)に取り入れていく。 ・様々な活動に消極的になり、失敗を恐れる子が、「自信」や「自己肯定感」を育ていけるよう、発達に合わせたゲームや新しい遊びを取り入れ、集団で遊ぶ楽しさを味わえる環境を整える。 ・今後、社会的にコロナ感染症への対策が緩和されることに伴い、体調の変化を言語化することが難しい子どもたちの、些細な表情や体調の変化を見逃さないよう、今まで以上に注意深く視診していく。 ・英語のアニメや音楽を聞き、視覚・聴覚から「英語に触れる」機会を設け、年長児は「国際交流」や「ICTキッズ」の機会を設けていく。
地域に根差した幼稚園づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育方針を広く地域(外部)の方に知っていただくために、「ホームページ」や「インスタグラム」「第一ひかり幼稚園通信」等で発信し、園内にも掲示していく。 ・在園児や卒園児、未就園児とのコミュニケーションを大切に、園が地域の人にとって「安心できる憩いの場」となれるよう努めていく。 ・小学校就学を控えた子どもたちが、就学後自信を持って学校生活を送れるよう、小学校との連絡・連携を行い、相互理解を深め、「小学校へ行っても困らない教育」として、基本的な生活習慣の習得や幼児期に経験・体験しておきたい教育の実践をしていく。